

総括質疑

令和6年度当初予算に対する予算決算常任委員会の総括質疑が3月8日に行われました。

湯和会・公明2人、政和会1人、湯沢政策研究会1人の計4人が会派を代表して質疑を行い、令和6年度の各予算の内容についてたどしました。

ここでは、質疑の内容の一部を抜粋して掲載します。



「湯和会・公明」
兼子 正寛 委員



■森林環境譲与税について

質疑 令和6年度から新たに森林環境税の徴収が始まるが、交付される森林環境譲与税を活用する事業については、例えば森林空間を使ったアスレチックやトレッキングの整備などに活用できると思うが、見解を伺う。

答弁 林業活性化支援事業をはじめ、地域産材活用促進事業や木質バイオマス導入促進事業などに活用する。今後は、森に親しむ事業にも大いに活用していく。

■観光情報発信事業について

質疑 台湾をターゲットにどのような情報発信を強化しPRを行っていくのか伺う。

答弁 旅行者に向けて、体験型旅行のプランやコンテンツの魅力

をPRする。

質疑 インバウンドの誘客には、本市として明確な方向性と危機感を持って早急に環境整備を行っていく必要があると考えるが。

答弁 湯沢を台湾の方に知っていただきたい。インバウンドについては長い期間をかけて周知する取り組みを行っていきたい。

■スポーツイベント開催事業について

質疑 稲川野球場リニューアルイベント事業について伺う。

答弁 元プロ野球選手の指導による野球教室を計画している。そのほかグラウンドゴルフやヨガなど、施設を多目的に使うイベントについても今後計画していく。



「湯和会・公明」
佐藤 功平 委員



■湯沢駅周辺複合施設等整備事業について

質疑 設計・施工一括契約に基づく実施設計のメリットとデメリットについて伺う。

答弁 基本設計業務や実施設計業務、建設業務などを包括的に契約することで、従来の分割発注方式に比べ、各業務への移行が円滑に進むことや事業費の縮減が見込まれるメリットがある。一方、契約段階で完成予想図等を示すことができなかったデメリットがある。

質疑 発注者側と施工者側とのチエック機能が果たせるのか。

答弁 発注者側である市と施工業者等で頻繁に協議を重ねることは当然のことであり、大規模な事業であるが、密に協議を進めていく。